

関東甲信越地区計量団体連絡協議会

計量グラス（計量線入り）推進委員会の経過報告

関東甲信越地区計量団体協議会計量グラス（計量線入り）推進委員会

委員長：小野 威

2015年10月23日に開催された平成27年度関東甲信越地区計量団体連絡協議会（関ブロ）において提案議題として発表された“計量グラスの導入に関して”が2015年12月4日の関東甲信越地区計量団体連絡協議会の代表者会議において関東甲信越地区計量団体連絡協議会の計量グラス（計量線入り）推進委員会として活動していくことが決定され、委員会には各県からの有志が参加し活動を開始しております。

EU各国特にドイツ（下記写真参照）では当たり前のように導入されている計量グラスを日本にも導入するように働きかけることは消費者に計量に関する認識を持ってもらうために意味のあることで、今後、計量グラス（計量線入り）推進委員会では委員の皆様はじめ様々な皆様方からの意見やビールメーカ等には計量グラス等の製作・導入、レストラン等にはメニューの容量表示等の働きかけを通して計量の大切さを消費者に伝えていける活動になると思っております。

現在（2016年12月）までに3回の委員会が開催されました。

第1回：計量グラス（計量線入り）推進委員会

日時：2016年2月29日 午後13時30分より

場所：計機健保会館 5階 第2会議室

議題：委員紹介、委員会の名称・確認、委員会の目的の確認、
今後の活動方針、次回開催日

委員に関しては関東甲信越地区計量団体に依頼した結果、下記の10名の皆様が委員として参加。

金井一榮氏（埼玉計量協会）、大岡紀美子氏、森克己氏（東京計量士会）、
北野芳男氏（東京計量協会）、金井喜久雄氏（群馬県計量協会）、
清水健次氏（山梨県計量協会）黒坂篤志氏（新潟県計量協会）、
佐藤竹一郎氏、佐藤 孝氏、小野 威（神奈川県計量士会）

第1回の委員会には、金井氏（埼玉計量協会）、大岡氏、森氏（東京計量士会）、

北野氏（東京計量協会）、金井氏（群馬県計量協会）、佐藤（孝）氏、小野（神奈川県計量士会）の7名が参加しました。

委員会の名称としては**関東甲信越地区計量団体連絡協議会：計量グラス（計量線入り）推進委員会**とすることになりました。

委員会の目的は、計量グラスを導入することにより、幅広く計量の大切さを一般の皆様にも広めることとしていくこととしております。

第2回計量グラス（計量線入り）推進委員会

日時：2016年6月15日 14時～

場所：島嶼会館

参加者：金井一榮、佐藤 孝、佐藤竹一郎、大岡紀美子、黒坂篤志、北野芳男の各委員、小野 威、荒川邦男氏（オブザーバー）

初参加の黒坂委員と今回オブザーバーとして参加した荒川氏の自己紹介の後、委員会が開催されました。荒川氏から連絡があり、以前、小野田氏が計量グラスを検討した時に関わっていたとのことでした。

最初に各委員から今日までの調査結果の報告が行われました。

小野委員長：計量新報社へ掲載した記事の説明、
計量グラスを導入している“つばめグリル”の状況、
ワインデキャンタの導入事例（レストランガスト）等

大岡委員：サッポロガーデン、ビールへの調査結果、
ワイン用計量線入りプラスチックカップ等

黒坂委員：ブルボンでの計量グラスの導入の検討、
新潟の居酒屋の計量グラス等

佐藤（孝）委員：市販されている計量グラス、ジョッキの大きさの検証
結果、ビール各社によるジョッキの大きさの比較等

北野委員：第一回の議事録

荒川氏（オブザーバー）：計量線入りジョッキ、グラスのサンプル、
20年前の読売新聞の計量グラスに関する
新聞記事、
ドイツの計量グラスの計量線の製作図等

20年前の1996年6月19日の読売新聞の記事によると「キリンシティ」のメモリ付きグラスが取り上げられており、東京都計量検定所が0,25Lの計量線入りグラスを作り関係団体や各位に配っていることや主婦連、計量行政審議会が計量グラス（計量線入り）が取り上げられていることなどがわかりました。

これらの調査結果や情報は今後の我々の活動に大きな役割を持っているものと思っております。今後の活動方針としては、下記の訪問調査を実施していくことにしております。

計量グラスを導入しているキリンシティ、つばめグリル、恵比寿ガーデンプレイス等、20年前に計量グラスの記事を書いた読売新聞社やビールジョッキの大きさの調査を行った Dining Advances' Development Inc. や計量関係につながるグラス販売制作の KAGAMI CRYSTAL

2016年10月19日に開催される関東甲信越計量団体連絡協議会（関ブロ）で本委員会での委員会活動報告を行うことにしております。

第3回計量グラス（計量線入り）推進委員会

日時 : 2016年10月5日 14時～

場所 : 計機健保会館 5階 第2会議室

議題 : 各委員の6月からの活動報告
今後の活動方針と活動内容
次回開催日

参加者 : 金井一榮、佐藤 孝、佐藤竹一郎、大岡紀美子、黒坂篤志、竹添雅雄（北野芳男氏の代理）、荒川邦男の各委員、小野 威、なお、金井喜久雄氏（群馬県計量協会）

11名の委員のうち8名の委員の参加で委員会が始まりました。荒川委員が過去に東京計量検定所が製作した250mlの計量線入りグラスはじめ様々な計量線入りグラスを持参しており参考になりました。

最初に各委員から6月から今日までの調査結果の報告が行われました。

小野委員長 : 計量新報社へ掲載した第2回委員会の記事の説明
10月に開催される関ブロでの計量グラス委員会報告の説明（資料配布）
キリンシティ訪問等の調査結果の報告等

黒坂委員 : 大宮市内でのキリンシティ等の訪問調査
新潟での市場調査

佐藤（孝）委員 : 市販されている酒グラス（計量線入り）の販売店の訪問と酒グラスの6個の購入（約¥300/1個）
酒グラスの製造元の確認等

荒川委員 : 計量線入りグラス（東京計量検定所が作成した）
計量線入りグラス、ジョッキのサンプル

ドイツの計量法、
M I D（計量器に関する欧州議会及び理事会指令）
C Eマークに関して

森委員からは長崎県等での調査結果がメールで送られてきており、計量グラスを取り扱っているレストランや居酒屋等は見つからなかったとの事でした。

2016年10月19日に神奈川県主催で開催される平成28年度関東甲信越計量団体協議会（関ブロ）で計量グラス（計量線入り）推進委員会の報告がされるので、その報告内容についての資料が配布された。当日は小野委員長が報告するが説明時間は5分に決められております。報告資料として現在までの活動報告をまとめた資料を関ブロに参加者全員に配布することにしております。

小野委員長と佐藤（孝）委員が横浜の桜木町にある「麒麟シティ」を訪問しメモリ付きグラスについて確認しました。

佐藤（孝）委員が実際に購入してきたS A K Eグラスは90mlと120mlのところ計量線が入っておりますが数字での容量表示はありませんでした。今後S A K Eグラスに関して調査に行くことになっております。

約20年前に東京都計量検定所が製作し関係団体等に配った0,25Lの計量線入りグラスを荒川氏が持参しており確認することが出来ました。また、ドイツの計量法では“面前計量販売容器（計量線入り計量グラス）”が定義されており、また、罰則規定も定義されていることがわかりました。また、M I D（計量器に関する欧州議会及び理事会指令）においては、体積実量器として線入り容器が明示されております。C Eマークに関してもM I Dのマーキングの項目出明確に規定されているとのことでした。

今後の活動方針としては、

- － 計量グラスを導入している麒麟シティ、つばめグリルの訪問調査
- － 20年前に計量グラスの記事を書いた読売新聞社への問い合わせ
- － 酒グラスの製造販売の（株）花山や計量関係のグラス販売制作のKAGAMI CRYSTALの訪問調査
- － 大手ビールメーカーへの訪問、計量グラス導入の可能性の確認
- － 越後ビール（新潟）へ計量グラス導入の働きかけ
- － 東京計量検定所が製作し配布した計量グラスの経緯とその後及び活動が終了した背景の調査
- － 10月19日に開催される関東甲信越計量団体連絡協議会（関ブロ）での委員会活動報告

“つばめ KICHIN (品川店)” の訪問調査

ドイツレストラン“つばめ KICHIN”を訪問し、計量線入りグラスを確認しました。このグラスは、ビールを提供するときに使用されておりドイツビールメーカーのロゴが入っております。また、メニューにはビールの容量表示がなされております。

つばめ KICHIN の計量線入りグラス



500ml のビアグラス

500ml の陶器のジョッキ



500ml のビアグラス

300ml のビアグラス

ファミリーレストラン“ガストのワインデキャンタ

ファミリーレストラン“ガスト”でワインをデキャンタで注文してところ500mlの計量線が入っているデキャンタにワインが入れられて出てきました。メニューを確認するとデキャンタ(500ml)と表示されておりました。メニューに容量表示しているのでワイン500mlを正確にデキャンタに入れる必要がありますので、計量線入りデキャンタを使用しているものと思われます。

ビアレストラン:MILE FIOREの計量グラス

ドイツビールがある居酒屋レストランのMILE FIOREにはドイツビールが置かれており、輸入されたドイツのグラス(計量線入り)が使用されて

おりました。このグラスはドイツビールを注文した場合に使用されており、日本のビールには使用されておりました。

MILE FIOREの計量グラス（ドイツ製）



中野セントラルパークにあるビールレストラン(FooT NiK)

ドイツやベルギーのビールが飲めるレストランでメニューにはそれぞれ1 Pine (568ml)、3/4 Pine (426ml)、1/2 Pine (384ml)、ジョッキ (435ml) の容量表示がされており、ドイツビールには計量線入りのグラスが使用されていました。

麒麟シティ（横浜桜木町店）の訪問記

麒麟シティ（桜木町）が実際に計量グラスを使用しているのかの確認を行った。メニューの一部のビールは容量表示されていた。

300mlグラスには下記の写真にあるようなスターマーク（★）が前面と後面に入っておりこのスターマークまでビールを注ぐと300mlであるとのことであった。また、600mlのグラスには麒麟のマークが入っておりこの麒麟のマークの足までが600mlであるとのことであった。

麒麟シティのスターマークが入った300mlグラス



前面のスターマーク 後面のスターマーク

SAKEグラスの(株)花山の訪問記

SAKEグラスは飲食店において日本酒を適正価格で販売してもらい日本酒の消費の拡大を図る目的で製作し販売しているとの事であった。飲食店で小容量売り(1合:180mlより小容量)が可能になるように既存のグラス(石塚硝子製)に120mlと90mlのところに線を入れている。今後90mlと45mlのSAKEグラスの製造販売も計画しており、現在まで約10万個販売されているとの事であった。

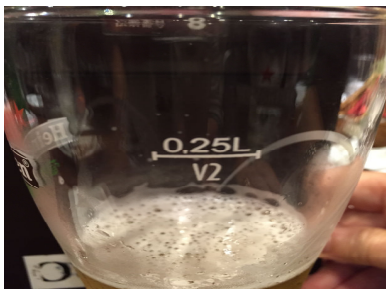
地魚の籠屋(上野)の訪問記

日本酒のメニューにはSAKEグラスを使用することを前提に0.7合と表示されており、SAKEグラスの120mlの線まで日本酒が注がれていた。実際0.7合は126mlですが・・・下の写真はSAKEグラスの写真で上線が120ml、下線が90mlの容量を表している。



キリンシティ(大船店)の訪問記

キリンシティの大船店を訪問フローズンビール用のグラス(前面と好面の2箇所★マーク入り)を確認しハイネケンのビンビール用ハイネケンのロゴマーク入りのグラスを確認したところ、0.25Lのところ計量線が入っていた。



0.25Lの表示がされているハイネケンのグラス